

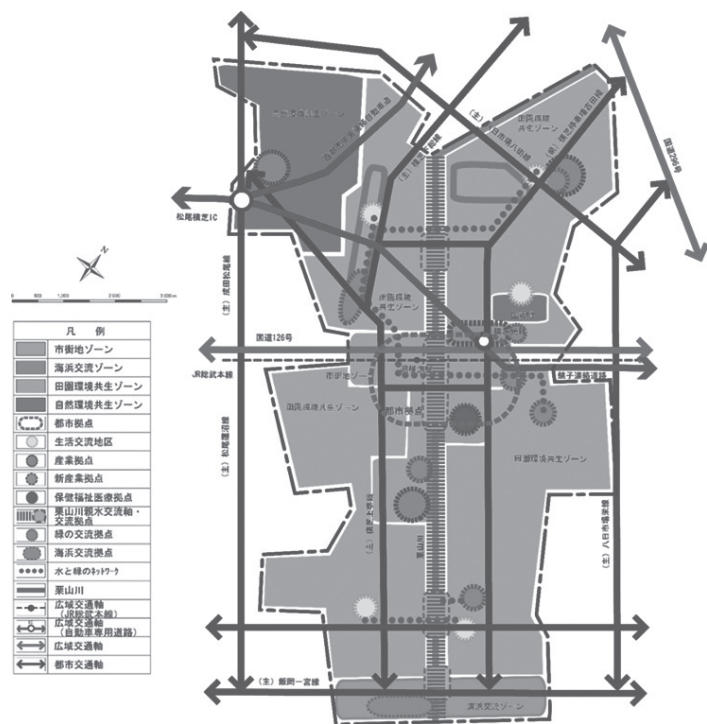
第3章

自然と共生する住みやすいまち

1. 市街地整備

現状と課題

- 市街地は、人や産業が集積し多彩な役割を担う、まちの活力の象徴ともいえる地域です。わが国では、限られた国土の有効利用のみならず、人口減少・少子高齢化時代を迎え、コンパクトな集約型市街地の整備などが進められています。
- 本町では、旧町単位であった都市計画区域を一元化するとともに、用途地域を見直し、計画的な土地利用の推進を図ってきました。また、JR 横芝駅前広場の機能改善と周辺地区の防災・防犯機能の向上により、都市拠点の形成を図ってきたところです。
- 本町においても、少子高齢化、人口減少社会の進行から拡大・分散した市街地を集約して、自動車を運転できない高齢者でも、徒歩や公共交通で気軽に買い物や病院への通院ができる集約型都市づくりの必要性が高まっています。
- 今後は、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の整備などを契機として都市機能の充実を図り、市街地の一層の利便性と安全性の向上に努めていくとともに、本町を取り巻く状況の変化に対応した土地利用の再検討なども求められます。
- また、横芝光 IC 周辺については、関係機関と継続的に協議して有効活用



将来都市構造図

関連する分野計画

都市計画マスタープラン

2012（平成 24）年度～おおむね 20 年後

● 基本方針 ●

人・自然・文化が共生した、一体感のある人にやさしい都市づくりを進めます。このため、地域特性を活かしつつ、都市拠点を中心とした一体性ある集約型の都市づくりを行うとともに、利便性の向上を通じ快適で活力ある都市づくりに努めます。

● 成果指標 ●

指標名	現状値	目標値（2021年度）
都市計画道路の整備率	61.0%	85.6%

● 施策 ●

施策 1	特性を活かした都市計画
都市計画区域の一元化に伴い、本町としての一体的・計画的都市づくりを進めます。また、地域の実情を踏まえながら、用途地域の見直しを検討します。	① 一体性のある都市づくりの推進 ② 用途地域の見直し
施策 2	市街地の利便性の向上
JR 横芝駅周辺や横芝光 IC 周辺などの都市整備事業を促進し、駅周辺をはじめとした地域におけるにぎわいの創出、利便性の向上などを図ります。	① 都市計画道路の整備 ② 横芝光 IC 周辺の整備促進 ③ 市街地整備の面的な検討

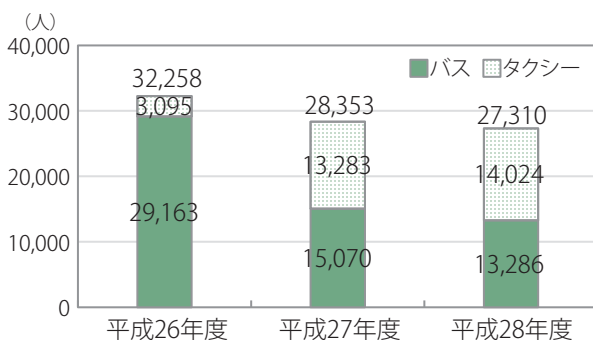


2. 道路・交通環境

● 現状と課題 ●

- 道路は、人々の生活や産業の振興のために不可欠な都市基盤です。高度経済成長期以降に整備された道路や橋梁などのインフラが一斉に老朽化することから、戦略的な維持管理・更新が全国的に求められています。
- 本町では、社会資本整備計画に基づき幹線道路および都市計画道路の整備を進め、町内交通の利便性向上を図ってきました。特に、栗山川架橋と取り付け道路の整備により、町の東西方向を結ぶ交通の利便性向上に努めてきたところです。併せて、住民生活に欠かせない歩道については、達成目標を上回って整備を進めました。
- 住民生活を支える生活道路については、拡幅工事や排水整備、補修などを行ってきました。一方で、幹線道路・生活道路とも工事から20年以上経過している路線が多く、路面の損傷も多く見られます。また、橋梁についても安全対策施設や沈下など修繕が必要とされる橋梁があるため、今後は、修繕計画に基づき工事を計画的に進め、道路利用者の安全な通行を確保する必要があります。
- 鉄道は JR 総武本線の横芝駅がありますが、駅のバリアフリー化や、駐車場、駐輪場、トイレなど駅周辺設備の維持管理が課題となっています。
- 循環バスについては、他の公共交通機関との接続を考慮し、効率性・利便性の向上に努めました。乗り合いタクシーについては2014（平成26）年12月より運行を開始し、利用者は増加傾向にありますが、高齢化の進行などを背景として、地域のニーズに即した交通体系づくりが求められています。
- 2016（平成28）年度の住民アンケート調査結果からは、少子高齢化が進む中、道路・交通環境の改善に対する高い期待が伺えます。このため、「地域公共交通網形成計画」の策定や「生活交通確保維持改善計画」の充実・改善により交通網整備の全体像を明らかにしながら、計画的に公共交通の利便性向上などに取り組んでいく必要があります。

町内循環バスおよび乗り合いタクシー利用者数



JR横芝駅前

関連する分野計画

都市計画マスタープラン

2012（平成24）年度～おおむね20年後

● 基本方針 ●

地域の活性化と利便性向上を図っていくため、計画的に道路・交通環境を整備します。このため、広域幹線道路網の整備を促進するとともに、便利で安全な町道の整備を進めます。併せて、ニーズを踏まえながら公共交通機関の維持・充実に努めます。

● 成果指標 ●

指標名	現状値	目標値（2021年度）
幹線町道の改良率	95.9%	98.0%
町内循環バスおよび乗り合いタクシー利用者数	27,310人	30,000人

● 施策 ●

施策1	幹線道路の整備
県など関係機関との連携を図りながら、本町の骨格をなす幹線道路の整備並びに延命対策を進めます。	① 幹線町道の整備 ② 道路施設の延命対策 ③ 国道・県道の整備促進
施策2	生活道路の充実
住民生活の利便性と安全性を高めるため、集落内の道路など生活道路の補修修繕を計画的に進めるとともに、地域の協力を得ながら美しく快適な道路環境をつくれます。	① 生活道路の整備 ② 交通安全施設の整備 ③ 協働による道路環境美化
施策3	公共交通機能の充実促進
「地域公共交通網形成計画」を策定し、関係機関との連携の下、ニーズを的確に捉えながら公共交通機能の充実を図ります。また、横芝駅の充実を図るため、JRに対して各種要望を行います。	① 鉄道（横芝駅）の充実の要望 ② 生活路線バスの運行 ③ 循環バスおよび乗り合いタクシーの効率性・利便性の向上 ④ 空港シャトルバスの運行 ⑤ 新たな公共交通の検討

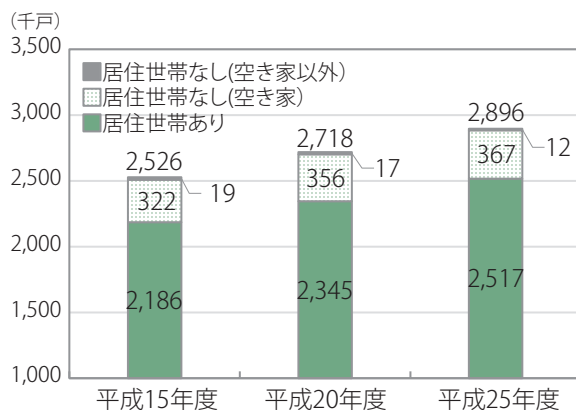


3. 住まい

● 現状と課題 ●

- 東日本大震災を契機に、改めて、地震や火災に強い住まいのあり方が求められています。また、少子高齢化が進む中、魅力的な住まいの建設を促していくとともに、空き家への対策なども求められています。
- 本町では、事業主との事前協議と千葉県主体のパトロールにより、民間宅地開発が適正に行われるよう指導してきました。併せて、地震や火災に強い住まいづくりに向け、耐震診断への支援や火災報知器の設置促進に努めてきたところです。
- 火災予防の観点から、火災報知機の設置拡充に向けた周知、啓発活動などの推進を図り、また、今後一人暮らしの高齢者が増加するため防火診断の実施などを促す必要があります。地震対策については、耐震改修を含めた補助制度の改正を検討する必要があります。
- 公営住宅については、長寿命化計画に基づき町営住宅の大規模改修を計画的に実施しました。また、県営住宅については、県に改修などを要望しています。
- また、安全・安心な居住環境を整えるため、空き家への対処が全国的にも問題となっていますが、本町においても空き家の実態を把握するとともに、所有者の意向調査などを行いながら、適正な管理方法を検討していく必要があります。

住宅総数と空き家の推移(千葉県)



宅地開発(イメージ)

関連する分野計画

耐震改修促進計画	2016(平成28)年度～2020年度
町営住宅長寿命化計画	2012(平成24)年度～

● 基本方針 ●

快適な居住環境を整えるため、民間宅地開発が適正に行われるよう指導していくとともに、地震や火災に強い住まいづくりを進めます。また、安全・安心な居住環境を確保するため、町営住宅の維持管理に努めるとともに、空き家対策について検討していきます。

● 成果指標 ●

指標名	現状値	目標値（2021年度）
木造住宅耐震診断および耐震改修補助金交付件数	0 件	5 件
住宅リフォーム補助金交付件数	13 件	15 件

● 施策 ●

施策 1	適正な宅地開発・住宅建築の促進
無秩序な宅地開発を防止し快適な居住環境を維持・創出するため、民間宅地開発が適正に行われるよう指導します。また、地震や火災に備えた安心・安全な住まいづくりを支援します。	① 宅地開発の適正指導 ② 耐震診断・改修の実施促進 ③ 防火診断の実施促進
施策 2	公営住宅の改善
施設の老朽化に対応しながら、町営住宅を適正に維持管理します。県営住宅については、県に改修などを要望します。	① 町営住宅の長寿命化の推進 ② 県営住宅の充実の要望
施策 3	空き家対策
安全・安心な居住環境を整えるため、空き家の実態を把握するとともに、所有者の意向などを把握しながら、空き家対策について検討していきます。	① 空き家対策の検討・推進

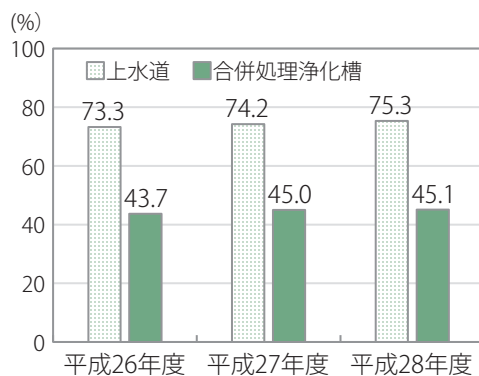


4. 上水道・下水処理

● 現状と課題 ●

- 安全でおいしい水は、暮らしに不可欠です。また、清潔で快適な生活環境を確保するためにも、適切な下水の処理が重要です。
- 本町の上水道は、栗山川より東側は八匠水道企業団、西側は山武郡市広域水道企業団が、それぞれ給水しています。施設の適正な維持管理や計画的な配水管の更新などに努めるとともに、水道事業体の広域統合に向けた検討が行われています。
- 今後も、老朽化した配水管の更新や水道事業体の広域統合に向けた検討を進め、暮らしを潤す上水道の充実に努めていく必要があります。
- 本町の下水処理については、2015（平成 27）年度に策定した「横芝光町污水適正処理構想」により合併処理浄化槽の設置を促進しています。また、木戸台・町原・小堤・牛熊・谷台・中台の各地区では、既設の農業集落排水施設により集合処理をしています。
- 今後も引き続き、単独浄化槽からの転換を含め合併処理浄化槽の設置を促すとともに、農業集落排水事業区域における接続促進、施設の適正な維持管理などに努め、快適に暮らせる環境を確保していく必要があります。

上水道・合併処理浄化槽普及率



配水管敷設替

関連する分野計画

污水適正処理構想

2016（平成 28）年度～2024 年度

● 基本方針 ●

安全でおいしい水を安定的に供給するため、老朽化した配水管の更新や水道事業体の広域統合に向けた検討を進めます。また、清潔で快適な生活環境確保のため、合併処理浄化槽の設置や農業集落排水への接続などを促進します。

● 成果指標 ●

指標名	現状値	目標値（2021年度）
上水道普及率	75.3%	80.3%
合併処理浄化槽普及率	45.1%	53.5%

● 施策 ●

施策 1	上水道の整備
安全な水の安定供給のため、配水管の計画的更新などを促進するとともに、住民の意識向上を促しつつ、水道事業の経営効率化を図ります。	①老朽配水管の計画的な更新促進 ②節水意識の普及啓発 ③水道事業の経営効率化
施策 2	下水処理対策の推進
快適な生活環境確保のため、合併処理浄化槽の新規設置や単独浄化槽および汲み取り便槽からの転換を重点的に促進します。また、農業集落排水への接続や、施設の維持管理などを促します。	①合併処理浄化槽の設置促進 ②農業集落排水施設の維持管理

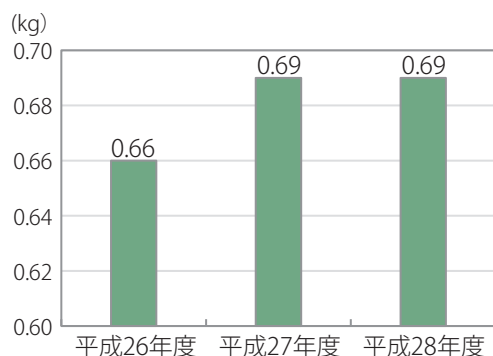


5. 環境衛生

● 現状と課題 ●

- 住みやすい地域づくりを推進するためにも、生活環境の維持・改善が重要です。
- 本町では、ごみ収集処理について、横芝地域は山武郡市環境衛生組合、光地域は匝瑳市ほか二町環境衛生組合で実施していますが、2021年度から光地域についても、山武郡市環境衛生組合で処理することになります。今後も、持続可能な循環型社会への移行に向け、さらなるごみの減量化や資源の再利用などの取組を進めていく必要があります。
- し尿収集処理については、横芝地域は山武郡市広域行政組合、光地域は東総衛生組合が実施しています。し尿収集処理の広域化への対応とともに、水質を保全するため、既設浄化槽の適切な管理などを推進していく必要があります。
- 火葬場については、横芝地域は山武郡市広域行政組合、光地域は匝瑳市ほか二町環境衛生組合が施設を運営しています。両施設は、大規模改修などが完了しているため、今後は、施設を計画的に維持管理していく必要があります。
- 公害の防止などについては、住民・事業者などに対する意識啓発を進めながら、関係機関との連携の下に取組を進めています。特に、航空機騒音対策については空港周辺対策交付金を財源として相応の対策を既に実施していますが、成田国際空港のさらなる機能強化が検討されていることを踏まえ、「空港と共生する地域づくり」に向け、航空機騒音対策のさらなる充実と、地域振興に資する取組の実施促進が課題となっています。

町民一人一日当たりのごみ排出量



山武郡市環境衛生組合

● 基本方針 ●

衛生的で快適な生活環境を実現するため、ごみ収集処理・し尿収集処理などに関する意識啓発や体制の充実に努めます。また、成田国際空港と共生する地域づくりに向け、航空機騒音対策のさらなる充実と、地域振興に資する取組の実現に努めます。

● 成果指標 ●

指標名	現状値	目標値（2021年度）
町民一人一日当たりごみ排出量	0.69kg	0.59kg

● 施策 ●

施策 1	ごみの適正な処理	
住民の意識高揚を促しながら、ごみの減量化に引き続き取り組みます。また、ごみ処理の広域化を見据えた体制整備に努めます。		① 一部事務組合の運営の充実 ② 循環型社会の構築 ③ 不法投棄防止対策の推進
施策 2	し尿の適正な処理	
し尿収集処理の広域化を見据えた体制整備に努めるとともに、既設浄化槽の適正な管理を促します。		① 一部事務組合の運営の充実 ② 合併処理浄化槽などの維持管理の推進
施策 3	生活環境の保全	
関係機関などとの連携の下に、公害の防止や空き地の適正な管理指導などに努めます。		① 公害防止の啓発 ② 空き地の適正管理指導
施策 4	火葬場利用の充実	
施設の計画的な維持管理に努めます。		① 火葬場の適正管理
施策 5	航空機騒音対策の充実	
国・県・空港周辺市町、並びに成田国際空港との密接な連携の下、航空機騒音対策のさらなる充実と、地域振興に資する取組の実施促進に努めていきます。		① 航空機騒音対策の充実 ② 空港と共生する地域づくり

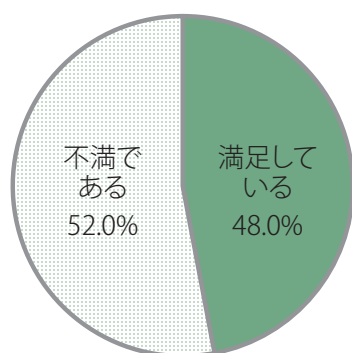


6. 環境・景観

● 現状と課題 ●

- 地球温暖化など、環境問題に対する関心が世界的規模で高まっており、わが国においても、温室効果ガス排出量の低減などに向けた取組が推進されています。
- 本町には、栗山川の水辺、九十九里浜の海辺、緑豊かな丘陵、広々とした田園といった自然的資源があり、これらが醸し出す本町ならではの風景は、世代を越えて伝えていきたい大切な財産です。
- 本町は、栗山川をはじめ町内各地域での環境美化活動や環境教育を通じ、環境保全に向けた意識の高揚に努めてきました。また、住民や事業者による太陽光発電システムや太陽熱利用システムの設置により再生可能エネルギーの活用を進めています。しかしその一方で、それらの設置に伴い、景観への影響など諸問題が懸念されます。
- 豊かな自然的資源は、歴史文化的資源と相まって本町の魅力を生み出しています。環境保全の側面のみならず、まちへの愛着を育んでいくためにも、住民・事業者などによる環境保全活動の充実を図っていく必要があります。

環境・景観施策に対する満足度
(住民アンケート結果)



町内一日清掃

● 基本方針 ●

本町ならではの魅力である豊かな自然環境を守り、活かしていくため、住民・事業者などとの協働の下に、環境保全活動を推進します。また、美しい景観を維持・創出していくため、住民の参画を得ながら美化活動などを展開します。

● 成果指標 ●

指標名	現状値	目標値（2021年度）
環境・景観施策に対する住民満足度	48.0%	50.0%

● 施策 ●

施策 1	環境の保全・活用
自然環境保全に関する意識啓発や環境教育の推進により、住民一人ひとりの参画を促します。また、環境基本計画の策定などを引き続き検討するとともに、再生可能エネルギーの活用促進に努めます。	① 環境保全の意識啓発 ② 環境教育の推進 ③ 環境基本計画等の策定 ④ 環境保全活動、エコへの支援
施策 2	景観の保全
本町の魅力を形づくる自然景観などの保全・創出に向け、住民の意識高揚と活動などへの参画を促しつつ、地域における活動の活性化を促進していきます。	① 景観整備への意識啓発

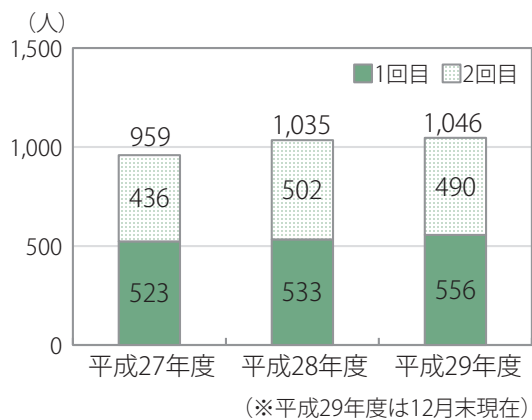


7. 河川・海岸整備

● 現状と課題 ●

- 河川や海岸といった水辺は、地域を代表する自然的資源として、人々の憩いの場、学習や交流の場ともなっています。他方、災害を未然に防止するため、河川や海岸の計画的改修なども必要とされています。
- 本町には、九十九里平野で最大の河川である栗山川と、風光明媚な九十九里浜があり、いずれも県によって整備が行われています。
- 栗山川については、河川改修工事が実施されていますが今後とも積極的に要望活動を行い、改修を促進することが必要です。九十九里浜については、海岸侵食が進んでいるため、順次対策が実施されています。しかしながら、侵食対策が行われていない本町の尾垂浜から木戸浜にかけては、早急に侵食対策を実施し砂浜の持つ波浪の軽減や陸への波の進入を防ぐ防災機能を回復することは元より、白砂青松の九十九里海岸の風景を回復することが急務となっています。
- 栗山川と九十九里浜は、本町の大切な地域資源であり、観光・交流事業などでの有効活用も期待されていることから、今後も関係機関と連携しつつ、県に対し取組の早期実施を要望するとともに、住民によるボランティア活動の活性化を図りながら、水辺を美しく保っていく必要があります。

栗山川周辺環境ボランティア参加人数



栗山川周辺環境ボランティア

関連する分野計画

都市計画マスタープラン

2012（平成 24）年度～おおむね 20 年後

● 基本方針 ●

大切な地域資源である河川や海岸を守り、これを有効活用していくため、災害防止対策と併せ、修景・親水空間の整備などを促していきます。また、住民によるボランティア活動の活性化を図りながら、河川や海岸を美しく保ちます。

● 成果指標 ●

指標名	現状値	目標値(2021年度)
栗山川周辺環境ボランティア参加人数	1,046 人	1,300 人
小学校およびボランティア団体との協働による海岸クリーン活動への参加人数	980 人	1,200 人

● 施策 ●

施策 1	栗山川の保全・活用
河川を改修し、修景・親水空間の整備を促します。また、清掃など住民によるボランティア活動の活性化を図るとともに、水辺のレジャーをはじめとする栗山川情報を発信します。	① 栗山川の改修の促進 ② 「ふるさとの川整備事業」の促進 ③ 環境ボランティアの育成・拡大 ④ 栗山川情報の発信
施策 2	九十九里海岸の保全
海岸の侵食対策を促進するとともに、住民によるボランティア活動の活性化を図り、海岸を美しく保全します。	① 海岸侵食対策の促進 ② 海岸清掃活動の推進 ③ 海岸への車両乗り入れの規制

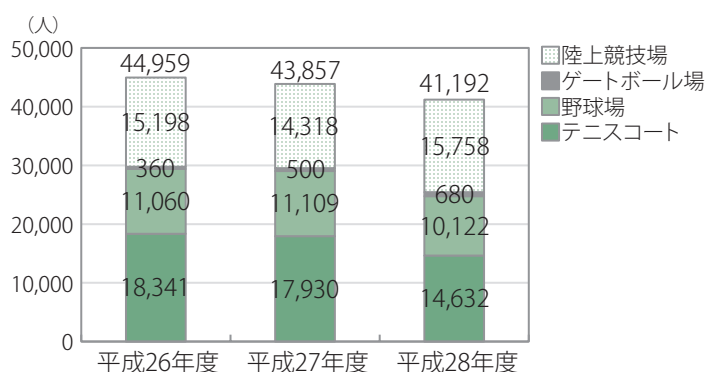


8. 公園・緑地整備

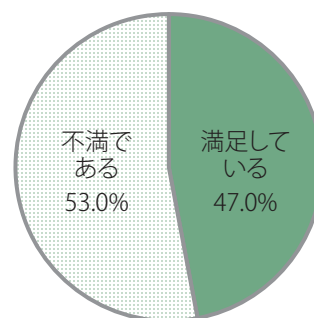
● 現状と課題 ●

- 公園・緑地は、人々の憩いの場となるだけでなく、文化、スポーツ、防災など、多様な機能を有しています。
- 本町では、海浜が県立九十九里自然公園に指定されているほか、自然豊かなふれあい坂田池公園やマリニピアくりやまがわ、歴史・文化的要素を活かした栗山平和公園や光文化の森公園、スポーツを楽しめる光スポーツ公園など、バラエティに富んだ公園が整備されています。
- 本町では、これらの公園について、草刈りなどの住民参画を得ながら、適切な維持管理と機能向上に取り組んでいるところです。
- また、特徴的景観である緑の田園風景を保全するため、多面的機能支払交付金^{※1}事業を活用しながら、農村の環境保全に努めています。
- 既に多様な公園が整備されていますが、今後も公園・緑地維持管理と機能向上に努めるとともに、緑豊かな田園風景を保っていくことが大切です。

ふれあい坂田池公園利用者数



公園・緑地整備に対する満足度
(住民アンケート結果)



ふれあい坂田池公園

関連する分野計画

都市計画マスタープラン

2012（平成 24）年度～おおむね 20 年後

※1 国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成など、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため、農業を支える共用の設備を維持管理する地域の共同活動に対する支援。

● 基本方針 ●

人々の憩いの場、文化・スポーツ活動の場、防災面での機能など、多様な役割を有する公園・緑地を保全するとともに有効に活用します。このため、住民の参画を得ながら、公園の維持管理と機能向上、まちの緑化運動活性化などに取り組みます。

● 成果指標 ●

指標名	現状値	目標値（2021年度）
公園・緑地整備に対する住民満足度	47.0%	60.0%
わたしの街 緑づくり事業参加団体数	7 団体	7 団体

● 施策 ●

施策 1 公園・緑地の保全と整備	
住民の参画を得ながら公園・緑地の維持管理に努め、これらを利用しやすく、快適に保っていきます。また、公園が持つ多様な機能に着目しながら、魅力の向上に努めます。	① ふれあい坂田池公園と坂田城跡との連携・有効活用 ② 公園の維持管理 ③ 計画的な公園・広場の機能充実
施策 2 緑化の推進	
住民の緑化意識高揚に努めながら、緑化活動の活性化を図ります。また、交付金事業などを活用しながら、地域の創意工夫により緑豊かな田園風景を保全します。	① 緑化意識の向上 ② 田園風景の保全

